

実践『ペルソナ』通信 (No.39)
「実践女子大学におけるスポーツ観戦」に関する調査結果

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生、実践女子大学職員の方を対象に、「スポーツ観戦」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は、実践女子大生から53サンプル、実践女子大学の職員の方から13サンプル、合計66サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科(担当：竹内)」、「経営学(担当：篠崎香織)」、「マーケティング(担当：齊藤明)」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を科学する研究会です。

総括

渋谷キャンパスに所属する実践女子大学生、実践女子大学の職員の方は、どのくらいスポーツ観戦に興味や関心があるのか、「スポーツ観戦」の実態について、実践女子大生から53サンプル、実践女子大学の職員の方から13サンプル、合計66サンプルの回答を得た。

その結果、スポーツに興味がなくとも友人に誘われて観戦を経験している人が多くいるということがわかった。しかし、スポーツ観戦に興味がある人でも現地まで足を運んで見るという人は少なかった。スポーツ観戦に興味があるという理由と、スポーツに興味があるから現地観戦するという関係性は見られなかった。

調査結果のポイント

(1) スポーツ観戦は年代に関係なく楽しめるものである

スポーツ観戦に興味があるか尋ねたところ、学生で「興味ある」と答えた人は66%、職員の方で「興味ある」と答えた人は54%だった。どちらも半数以上の人々が「興味がある」と答えたことから、スポーツ観戦は年代に関係なく楽しめるものであるという結果になった。

(2) スポーツに興味がなくとも観戦を経験している人が多くいる

現地でスポーツ観戦したことがあるか尋ねたところ、学生は「ある」が77%、職員の方は「ある」が92%であった。この結果から、スポーツ観戦に対する興味よりも多かったことから、興味がなくとも観戦を経験している人がいることがわかった。

(3) 友人と一緒に現地観戦に行く人が多い

誰と現地でスポーツ観戦することが多いか尋ねたところ、学生も職員の方も 7 割以上の人が「友人」だった。また、職員の「その他」には「家族」との意見もあった。この結果、職場や学校の友人と一緒に現地観戦を楽しんでいる人が多いことがわかった。

(4) 日本を代表するスポーツ選手は今も現役として活躍しているイチロー

日本を代表するスポーツ選手について尋ねたところ、学生、職員の方共に 1 番多かったのは「イチロー」だった。世代を問わず、海外で多くの成績を残し、今も現役として活躍しているイチロー選手が日本を代表する選手だと思っていることがわかった。

(5) 学生、職員の方共に、デートとしてスポーツ観戦に行きたいと思っている

夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたいか尋ねたところ、学生では 68%、職員の方では 69%と両方とも約 7 割の人が、夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたいと思っていることがわかった。

(6) 東京五輪の現地観戦は半数以上が行きたいと思っている

東京五輪の現地観戦に行きたいかと尋ねたところ、行きたいと回答した学生は 64%、職員の方は 62%であった。しかし、残りの 4 割ほどは行きたくないと考えていることがわかった。自国である日本で開催される五輪だが、行きたいと思わない人もいるという結果になった。

調査結果について

<調査概要>

1. 調査対象：実践女子大生(渋谷キャンパス在生)と実践女子大学の職員(渋谷キャンパス)
2. 調査方法：質問紙によるアンケート
3. 調査期間：2016年11月
4. 有効回答者数：66人
5. 回答者の属性：実践女子大学生：53人、実践女子大学の職員：13人

本件調査担当

実践「ペルソナ」研究会

3年 相澤 茉穂里

3年 仲田 真緒

3年 持丸 美樹

調査結果データ

(1) スポーツ観戦に興味があるか尋ねたところ、学生で「とてもある」、「ある」と答えた人は 66%だった。また、職員の方で「とてもある」、「ある」と答えた人は 54%だった。半数以上の人々が「興味がある」と答えたことから、スポーツ観戦は年代に関係なく楽しめるものであることがわかった。

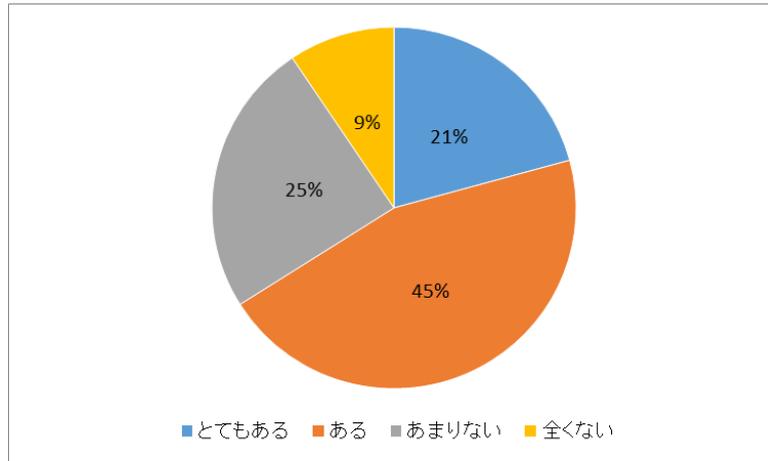


図 1.スポーツ観戦への興味（学生）(N=53)

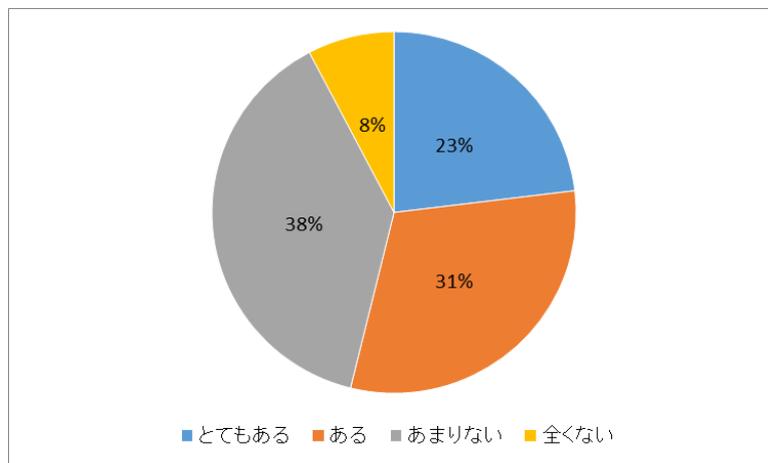


図 2.スポーツ観戦への興味（職員）(N=13)

(2) 最も好きなスポーツについて尋ねたところ、学生に 1 番人気だったのは「野球」で、職員の方に 1 番人気だったのは「サッカー」だった。「その他」には「水泳」、「フィギュアスケート」などの意見があった。学生でサッカーがあまり人気なかったのに対し、逆に職員の方はサッカーが圧倒的人気で、野球は人気なかったため、年代によって好きなスポーツも変わっていることがわかった。

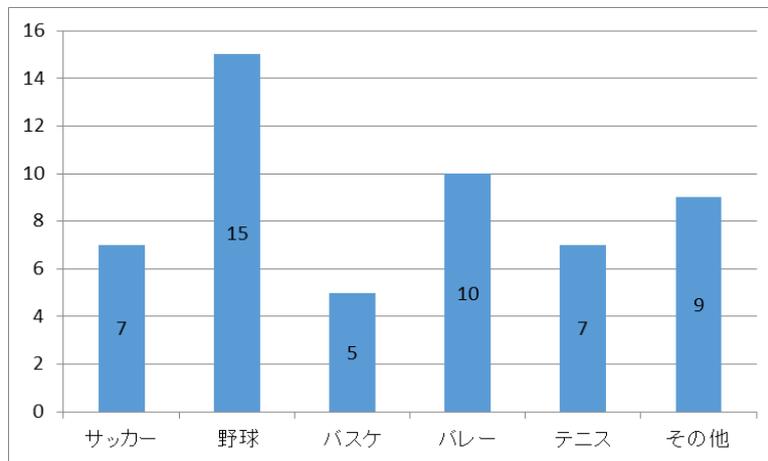


図 3.好きなスポーツ（学生）(N=53)

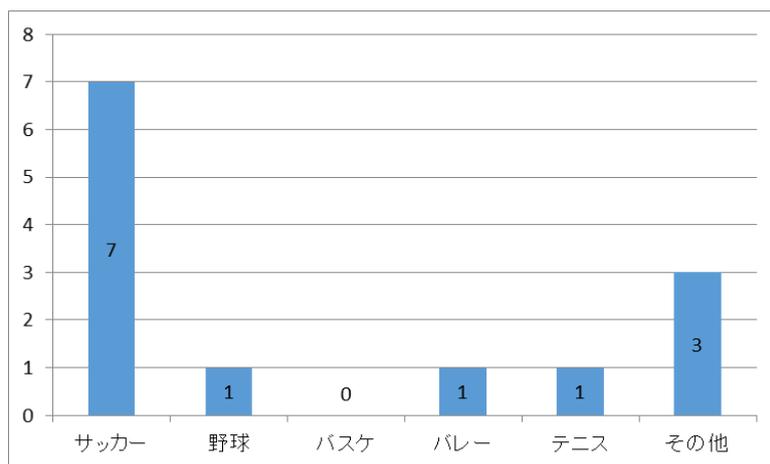


図 4.好きなスポーツ（職員）(N=13)

(3) 現地でスポーツ観戦をしたことがあるか尋ねたところ、学生は「ある」が77%、職員の方は92%であった。この結果から、7割以上の方が現地観戦を経験しており、スポーツ観戦に対する興味よりも多かったことから、興味がなくても観戦を経験している人がいることがわかった。

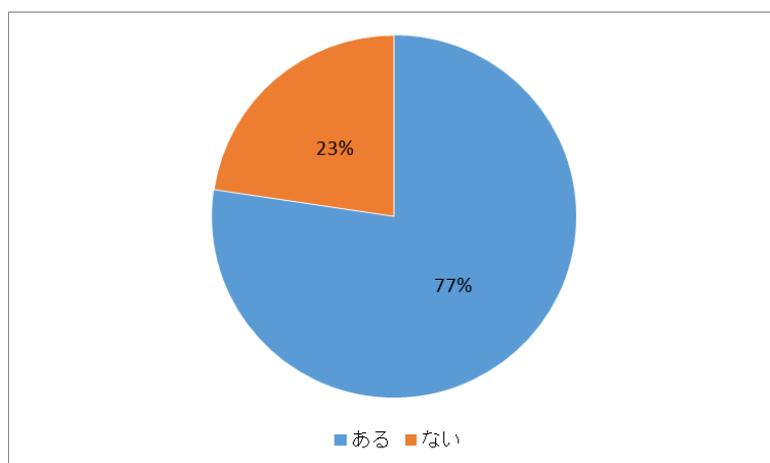


図 5.現地でのスポーツ観戦経験の有無（学生）(N=53)

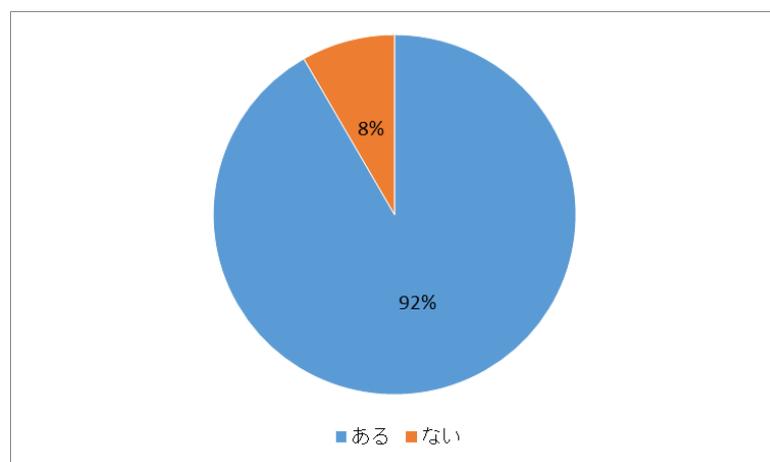


図 6.現地でのスポーツ観戦経験の有無（職員）(N=12)

(4) 初めて現地で観戦したきっかけを尋ねたところ、学生は「周りに誘われたから」が1番多く46%であった。また職員の方は「周りに誘われから」が55%、「その他」が27%で、「その他」の中には「友達が出場しているから」という意見があり、学生ではなかなか無いような理由があることがわかった。このことから「誘われた」という理由が現地観戦に行った1番の理由であることがわかった。

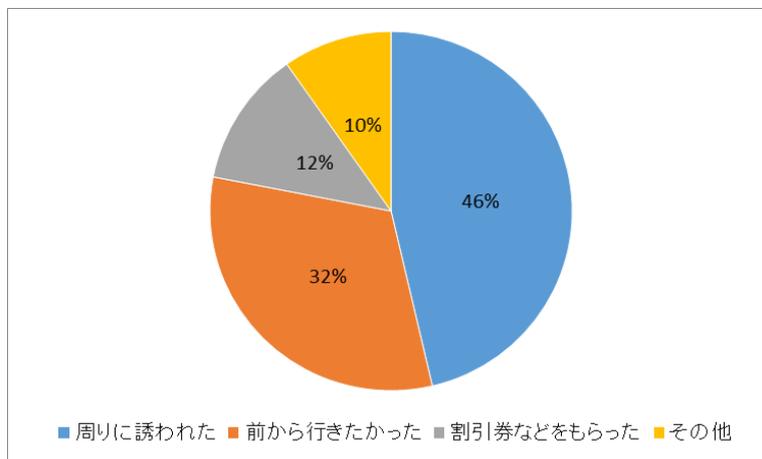


図7.現地観戦のきっかけ（学生）(N=41)

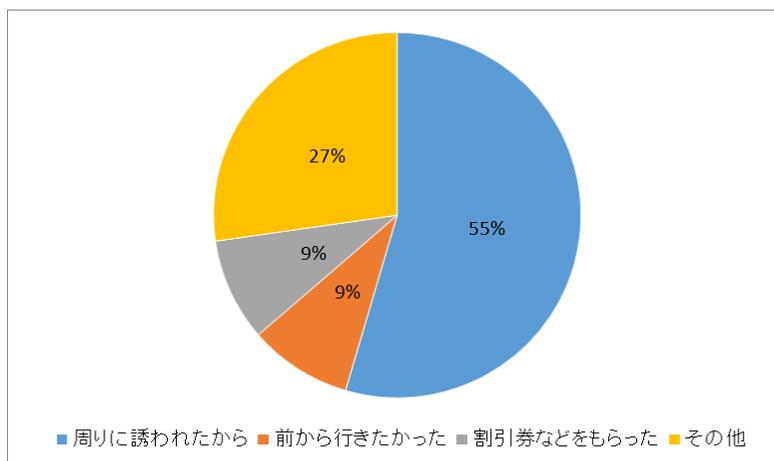


図8.現地観戦のきっかけ（職員）(N=11)

(5) 現地でのスポーツ観戦の頻度について尋ねたところ、学生も職員の方も7割以上の方が「1~2回」と答えた。このことから、スポーツ観戦に興味はあっても現地まで足を運んで見るという人はさほど多くないことがわかった。

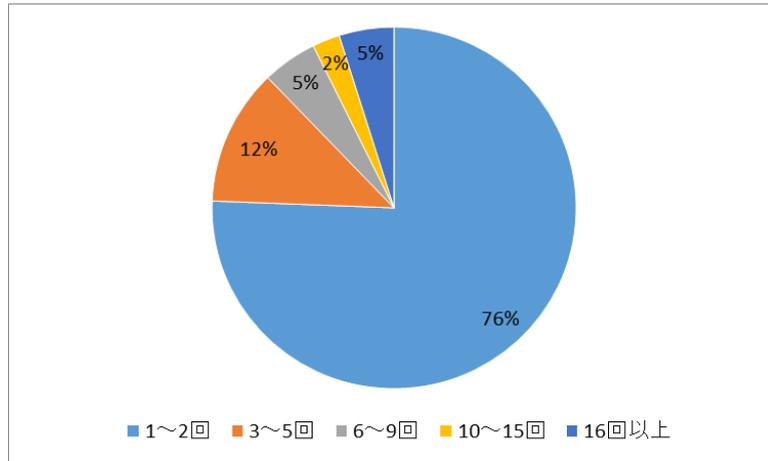


図 9.現地でのスポーツ観戦の頻度（学生）(N=41)

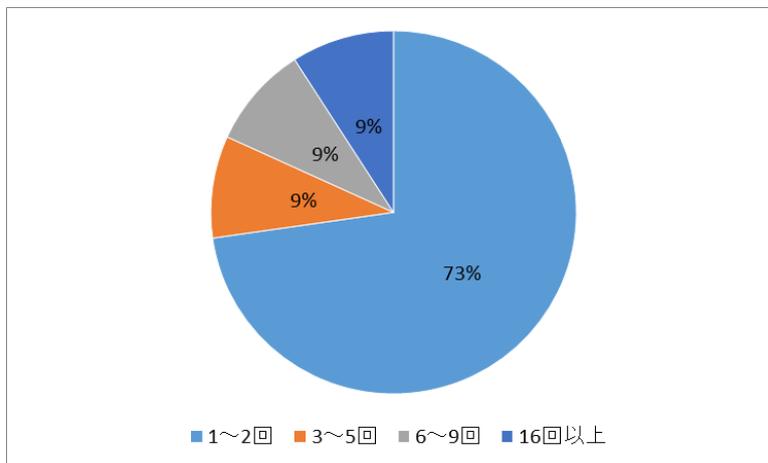


図 10.現地でのスポーツ観戦の頻度（職員）(N=11)

(6) 誰と現地でスポーツ観戦することが多いか尋ねたところ、学生も職員も7割以上の方が「友人」と答えた。また、職員の方の「その他」には「家族」という意見もあった。多くの方が「友人」と答えていることから、友人に誘われ一緒に現地観戦を楽しんでいる人が多いことがわかった。

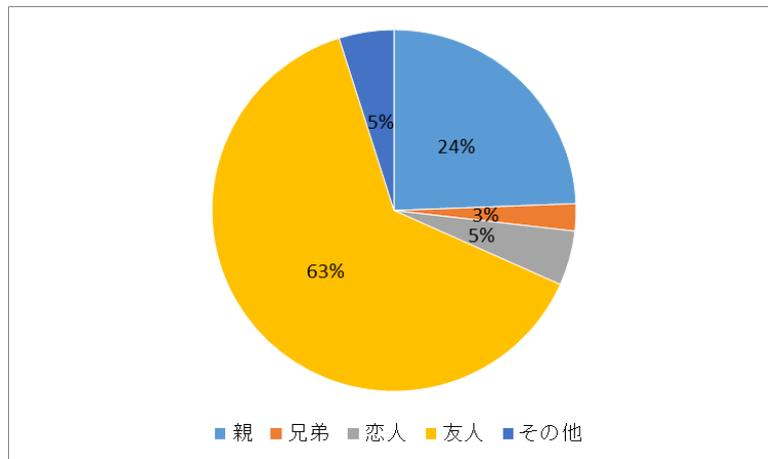


図 11.現地で誰と一緒に観戦したか（学生）(N=41)

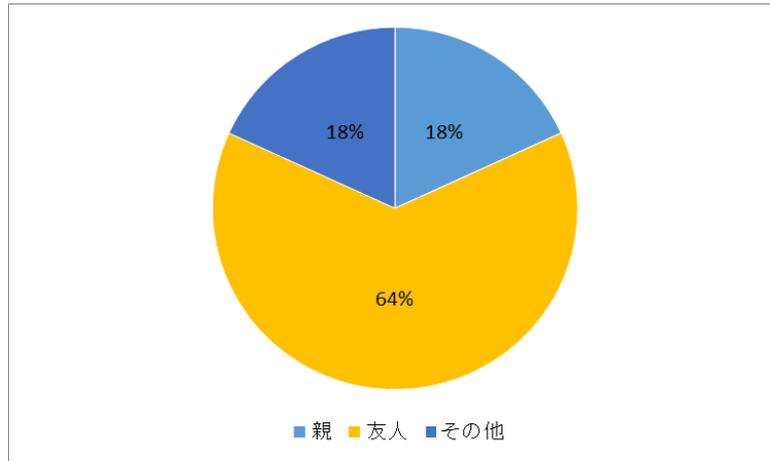


図 12.現地で誰と一緒に観戦したか（職員）（N=11）

(7) 日本を代表するスポーツ選手について尋ねたところ、学生で一番多かったのは「イチロー」、「錦織圭」であった。また、職員の方で1番多かったのは「イチロー」であった。この結果から、日本でも海外でも多くの成績を残し、43歳の今も現役として活躍しているイチロー選手はやはり、多くの人が日本を代表する選手だと思っていることがわかった。

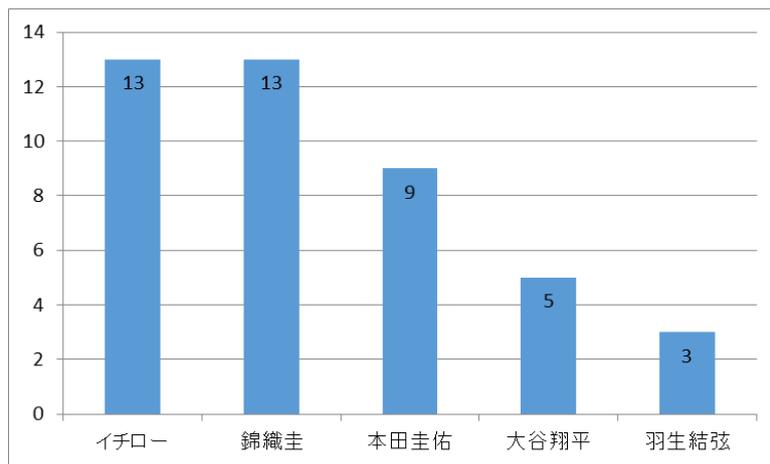


図 13.日本を代表するスポーツ選手（学生）（N=53）

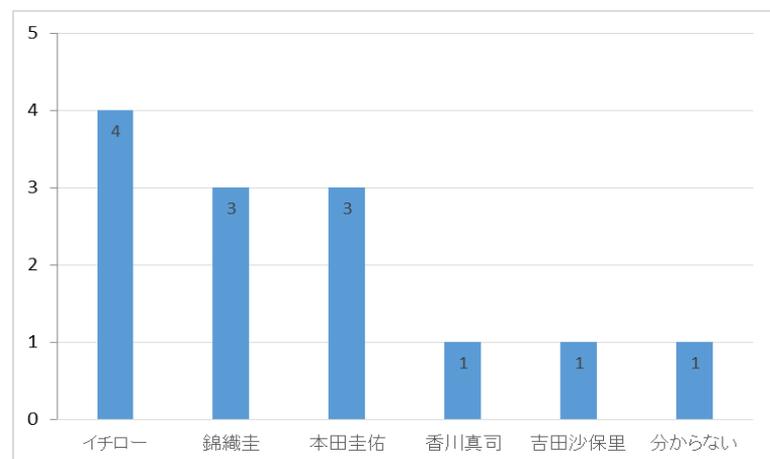


図 14.日本を代表するスポーツ選手（職員）（N=13）

(8) 最も好きなスポーツ選手について尋ねたところ、学生で一番多かったのは「羽生結弦」、「錦織圭」であった。また、職員の方で一番多かったのは「錦織圭」であった。この結果から、もちろん他の選手も活躍しているが、世界レベルで大きく活躍している選手が人気であることがわかった。

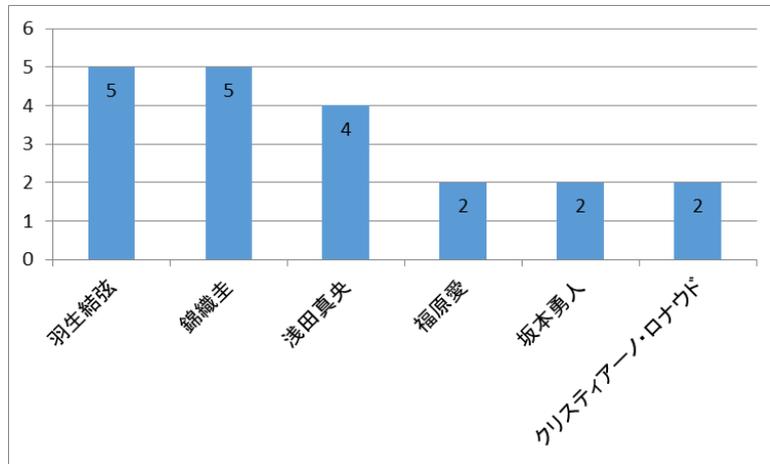


図 15.最も好きなスポーツ選手（学生）(N=53)

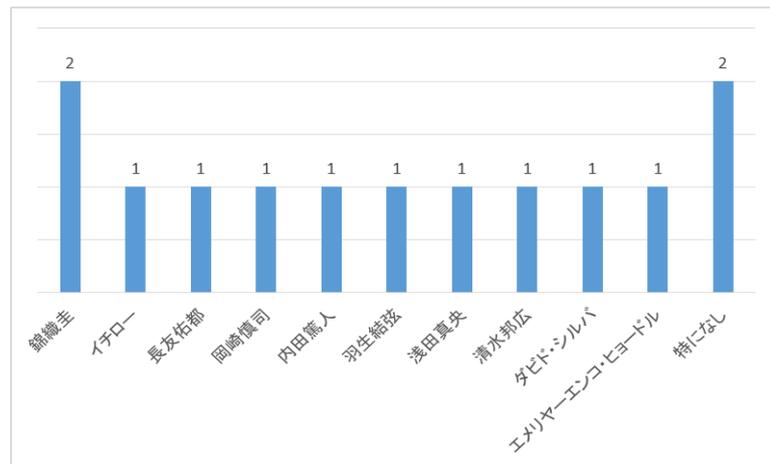


図 16.最も好きなスポーツ選手（職員）(N=13)

(9) 昨年に比べて現地でスポーツ観戦をする機会が増えたか尋ねたところ、昨年よりも増えた割合は学生の方が多く、職員の方の3倍であった。学生と職員の方の両方で一番多かったのが変わらないという回答であった。(1)からスポーツ観戦に興味がない人が3割以上いること、(5)から多くの方は年に現地でスポーツ観戦をする頻度が低いことがわかった。減った、変わらないという人が多い理由はこれらのことと関係している可能性が高い。

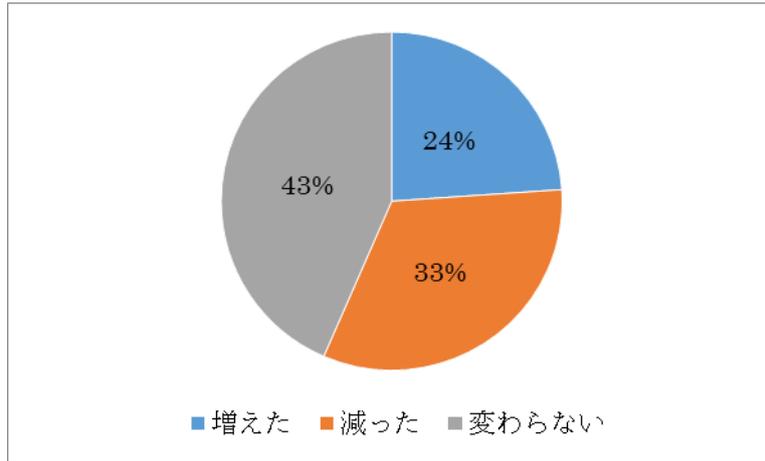


図 17.昨年と比較した現地でのスポーツ観戦の機会（学生）(N=53)

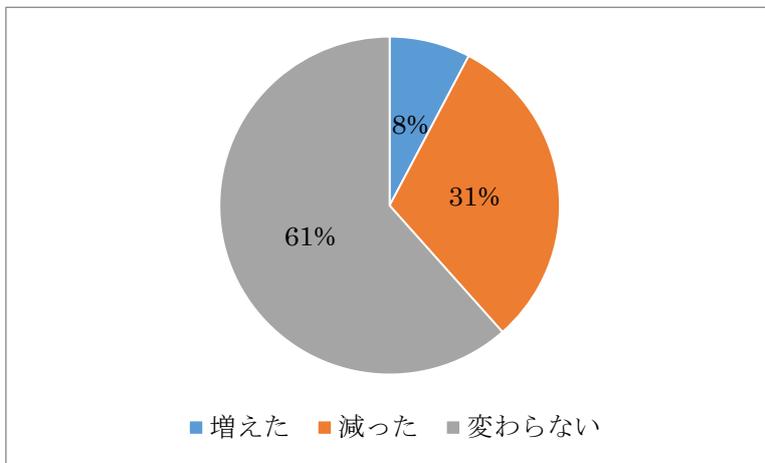


図 18.昨年と比較した現地でのスポーツ観戦に機会（職員）(N=13)

(10) 夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたいか尋ねたところ、学生、職員の方共に約7割の人が、「スポーツ観戦に行きたい」と答えた。このことから、男性に多いと思われていたが、女性もデートとしてスポーツ観戦に行きたいと思っている人が多いことがわかった。

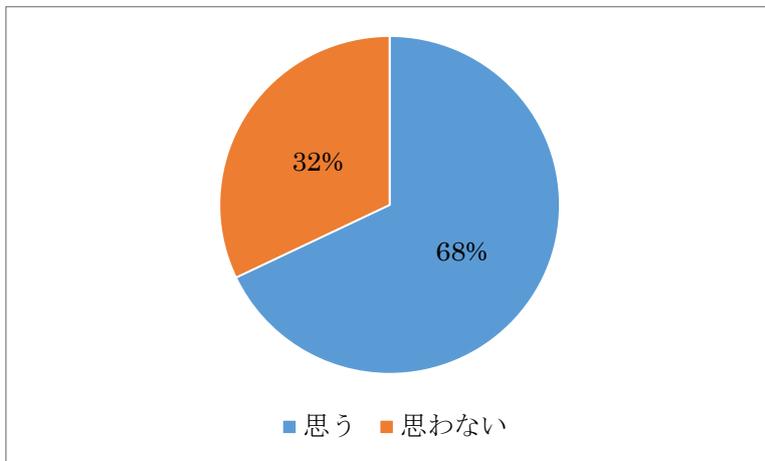


図 19.夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたいか（学生）(N=53)

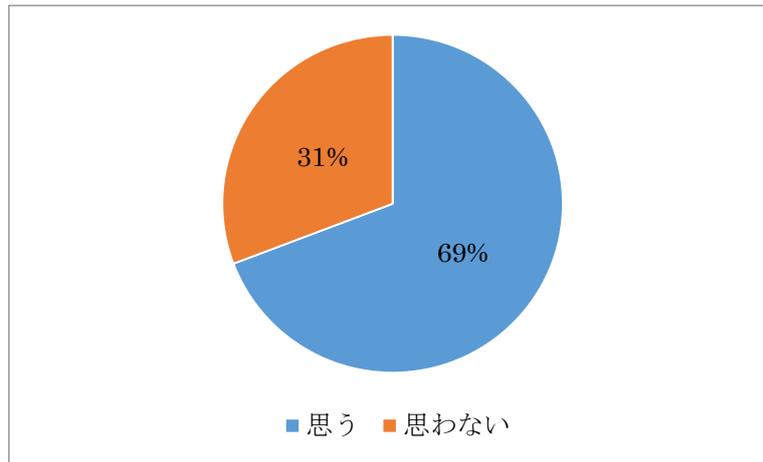


図 20.夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたいか（職員）(N=13)

(11) 夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたい理由を尋ねたところ、学生と職員の方の両方とも「楽しそうだから」という理由が78%と圧倒的に多かった。「スポーツ観戦が好きだから」という理由は、「楽しそうだから」という理由の4分の1程しかいなかった。このことからスポーツ観戦自体が好きだから行きたいというより、楽しみたいから行きたいと思っている人が多いことがわかった。

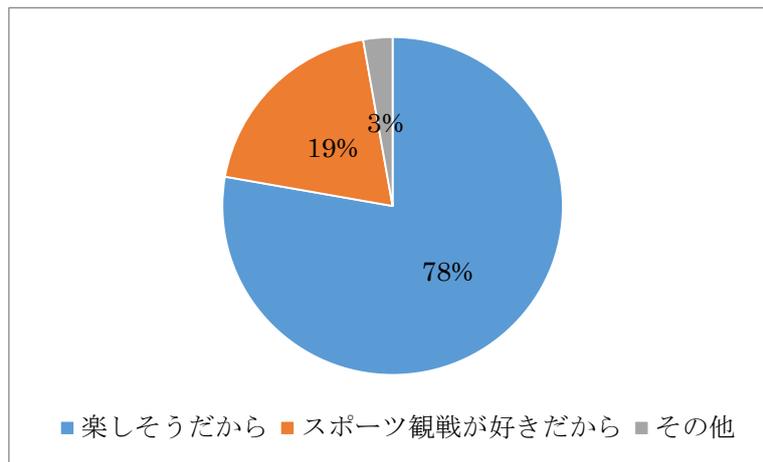


図 21.夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたい理由（学生）(N=36)

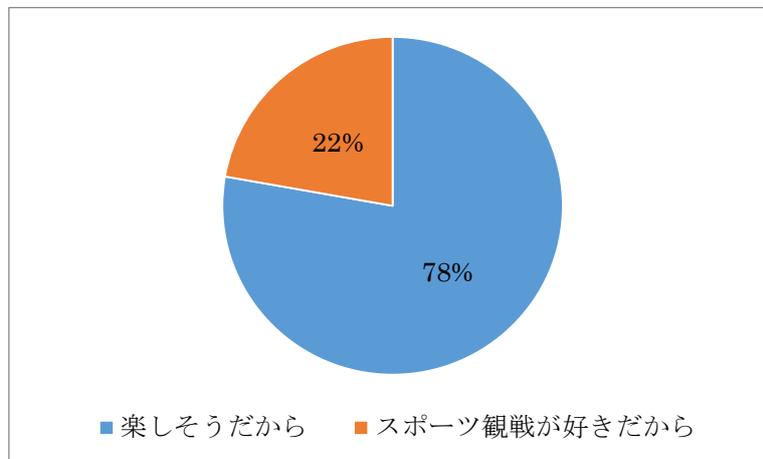


図 22.夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたい理由（職員）(N=9)

(12) 夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたくない理由を尋ねたところ、「デートでは行きたくない」と回答した職員の方の割合は学生の2倍であった。(10)で思わないと回答した学生の8割以上はスポーツ観戦に興味がないことがわかった。全体的に、デートとして行きたくないというよりは、スポーツ観戦に興味がないため、行きたいと思わない傾向にあることが結果からわかった。

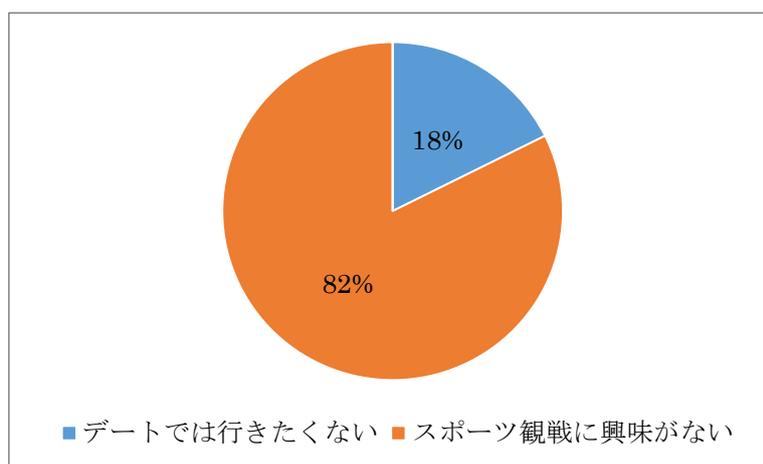


図 23.夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたくない理由（学生）(N=17)

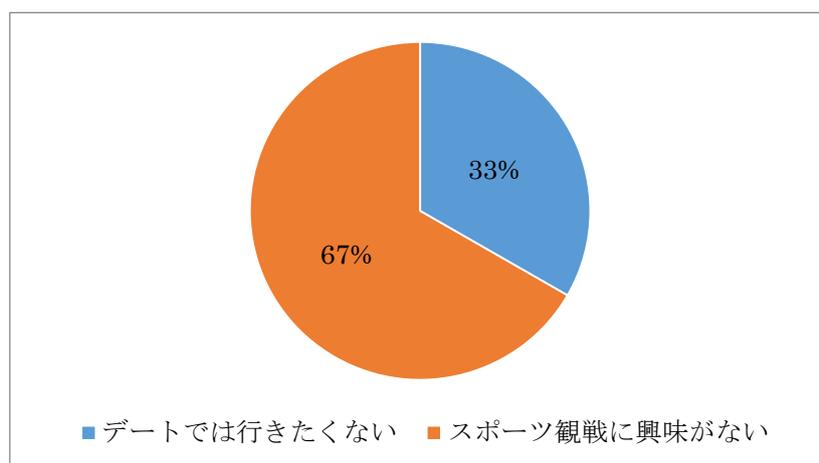


図 24.夫もしくは彼氏とスポーツ観戦に行きたくない理由（職員）(N=3)

(13)2016年のリオ五輪をテレビ中継で見たか尋ねたところ、「見た」と回答した学生は74%いた。一方で、職員の方で「見た」と回答した人は31%と半分にも満たなかった。現地観戦ではなく、テレビ中継でのスポーツ観戦においては、学生と職員の方で違いが見られた。このことから、自由な時間が多い学生の方が見やすい環境にあったと言える。また、テレビ中継でのスポーツ観戦は現地観戦と違い、チケット代や交通費がかからないことも関係している可能性が高い。

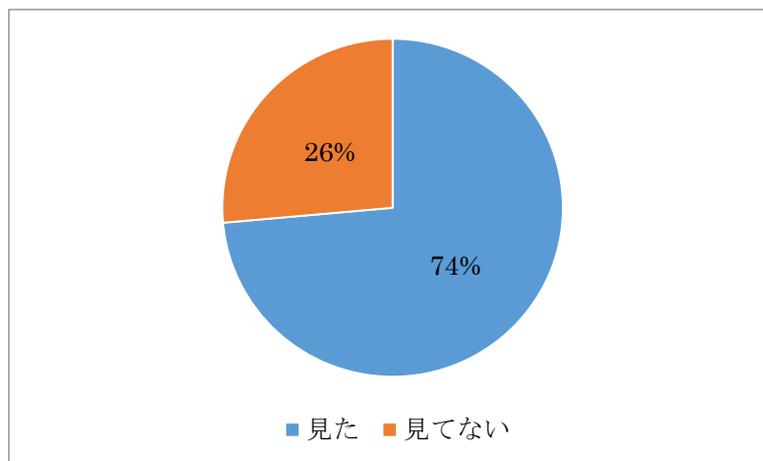


図 25.リオ五輪は見たか（学生）(N=53)
※テレビの中継に限る

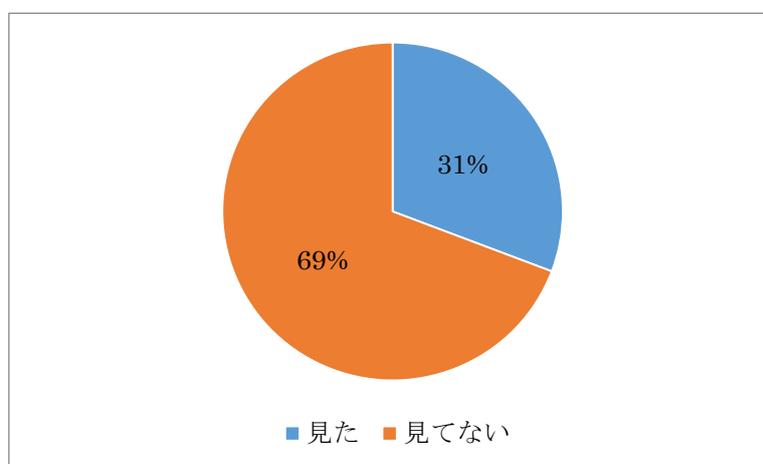


図 26.リオ五輪は見たか（職員）(N=13)

(14) 2020年開催の東京五輪の現地観戦に行きたいかと尋ねたところ、「行きたい」と回答した学生は64%、職員の方は62%であった。両方とも約6割が行きたいと思っているが、残りの4割ほどは行きたくないと考えていることがわかった。自国である日本で開催されるためもっと多くの人が行きたい回答すると考えていたがそこまで多くないことに驚いた。

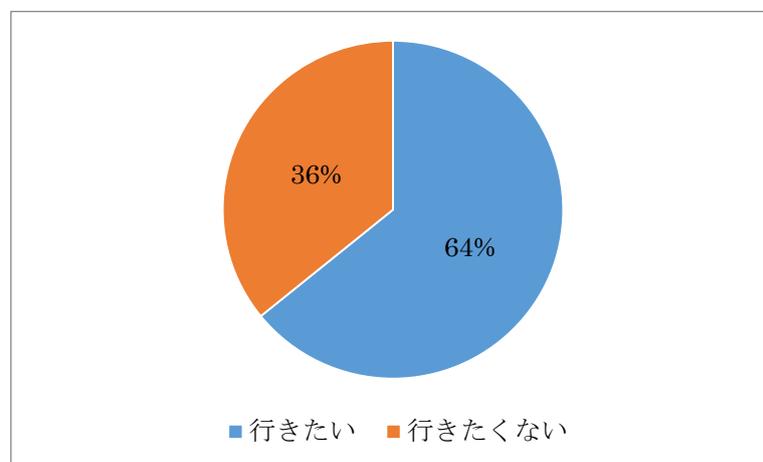


図 27.東京五輪の現地観戦に行きたいか（学生）（N=53）

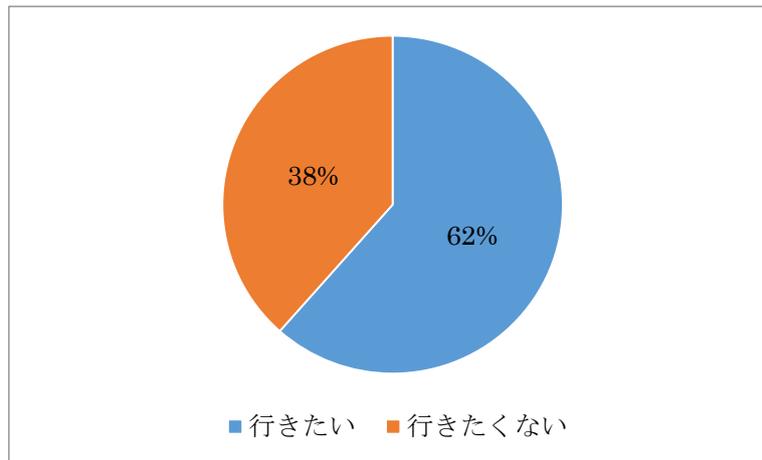


図 28.東京五輪の現地観戦に行きたいか（職員）（N=13）

(15) 東京五輪の現地観戦をしたい理由を尋ねたところ、学生の 8 割以上は「東京でやるから」と回答した。職員の方も「東京でやるから」が 1 番多く、62%だった。また、職員の方で「好きな競技があるから」と回答した人がいなかった。やはり、「東京でやる」という理由は現地観戦したい理由に大きく影響していることがわかった。

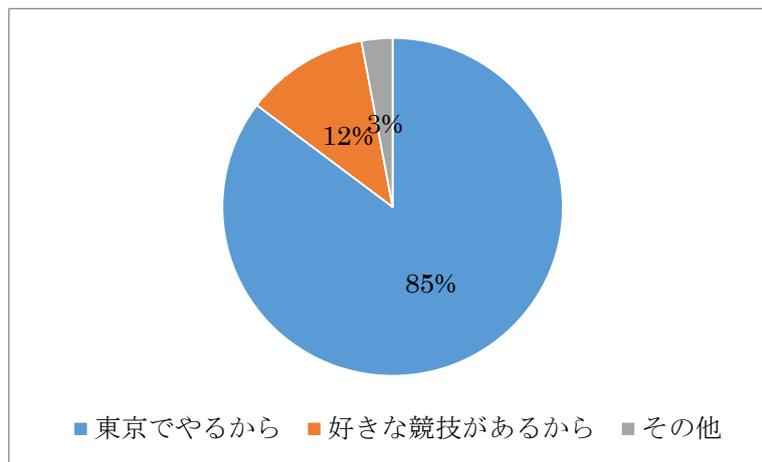


図 29.東京五輪を現地観戦したい理由（学生）（N=39）

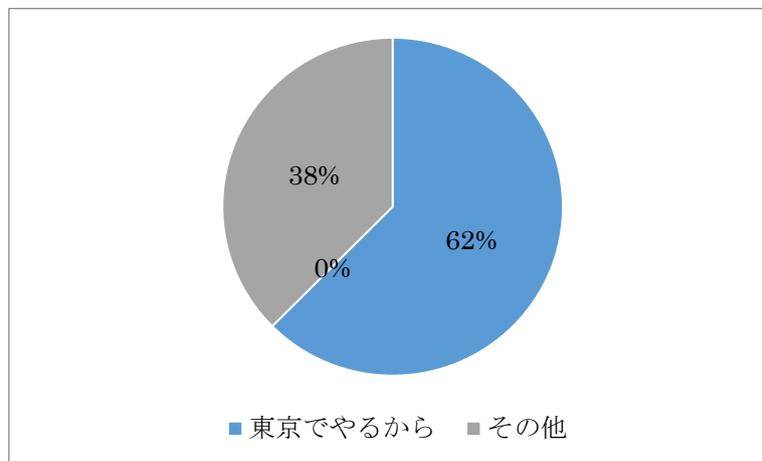


図 30.東京五輪を現地観戦したい理由（職員）（N=8）

(16) 東京五輪の現地観戦をしたくない理由を尋ねたところ、「テレビで見ればいい」、「五輪に興味がない」という学生が42%であった。一方で、職員の方は「テレビで見ればいい」が60%であった。職員の方の五輪に興味のない割合は学生よりも低い。このことから、興味がないのではなく行く時間や費用のことを考えてこのような結果になったと考えることもできる。

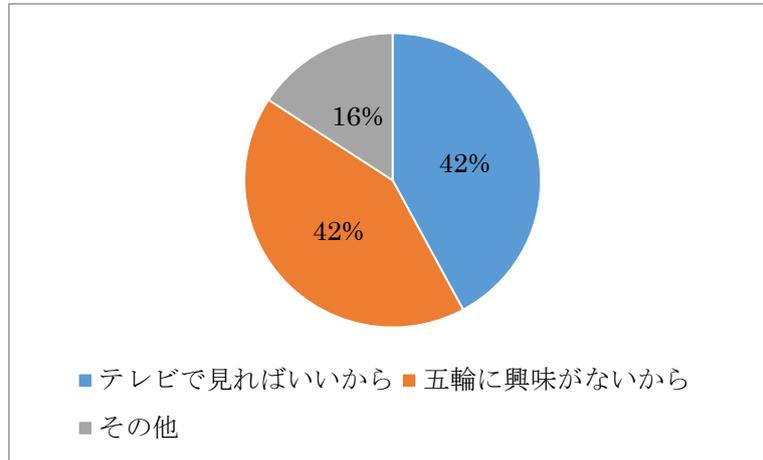


図 31.東京五輪を現地観戦したくない理由（学生）（N=14）

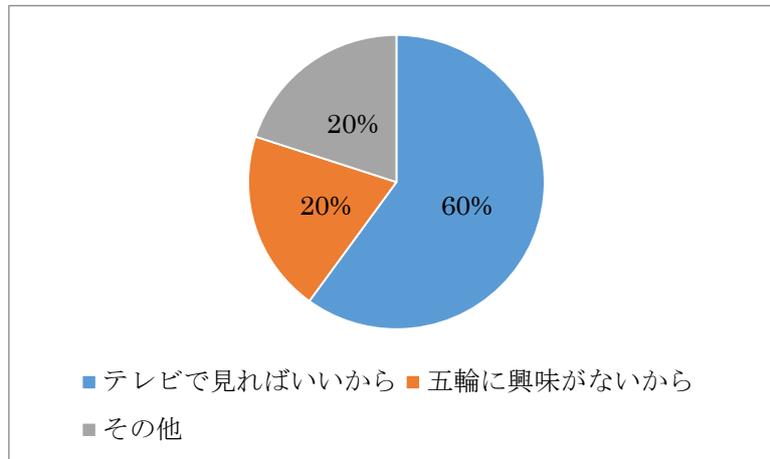


図 32.東京五輪を現地観戦したくない理由（職員）（N=5）